―奥秩父　荒川源流―

「真ノ沢本谷」

20 10 年 10 月 17~18 日

Ｌ西村（文）後藤

奥秩父で最も自然がよく残っていると云われる真ノ沢本谷に入った。真ノ沢は甲武信ヶ岳北東面から流れ出る荒川の源流で、流域に残る原生林は、太古の姿を残しているといわれ、落差 20m を超す千丈の滝をはじめ多くの滝やゴルジュ、ナメありの美しい沢である。

今回は、この美しい沢の遡行と焚火が目的である。今シーズンはどういう訳か焚火に恵まれず、沢納めを盛大な炎で飾りたかったからである。

＜17 日　曇り＞

後藤さんが新しく購入したカーナビのおかげで、前夜は一つの間違いもなく毛木平の駐車場に入ることができた。5:30 駐車場発、十文字峠を越えて股の沢林道を下り真ノ沢出合に着いたのは、11:30 だった。通称「通らず」のゴルジュは左岸高巻きで抜け、ゴーロを歩く。2～3m の小滝が時々現れるが傾斜は緩く、やや退屈である。

Ｆ２－８m はザイルを出して右岸を大きく高巻く。まだかまだかと思っていたら漸く武信白岩沢を分け、その先すぐに念願の千丈の滝を見ることができた。まずまずの迫力である。両岸は切り立ってどう見ても巻けず、白岩沢出合付近まで戻り、左岸の小尾根を登って真ノ沢林道に出て大きく高巻いた。そろそろ良い時間（15:30）なので、大滝を巻いた所でビバークすることにする。薪は豊富でおまけに後藤さんの持ってきた新品の鋸が威力を発揮し、存分に焚火を楽しむことができた。漁期を過ぎたため、焚火の周りに岩魚を並べられないのが残念だ。大焚火の横で気持ちよくツェルトに潜り込んだが、夜中に寒くて目が覚め、震えで眠れない。外に出ると満天の星空、どうやら放射冷却で急激に冷え込んだようだ。シュラフを持ってこなかったのが悔やまれる。隣で羽毛を着込み、シュラフの中で気持ちよさそうに寝息を立てている後藤さんが羨ましい。

＜18 日　晴れのち曇り＞

8:00 ＢＰ発。テン場からしばらく歩くと、穏やかな流れの中に幻想的な原生林が現れ、思わず見とれてしまう。私には真ノ沢で最も美しい所のように思われた。再訪してゆっくり釣りでもしようと後藤さんと話す。所々小滝が出るが苦になる所はなく、女性的で静かな流れが続く。倒木の多さがいささか気になるが、美しいナメ滝も現れ心を癒してくれる。途中 6m 程のナメ滝は巻きが面倒臭そうなので、右壁のチムニーにハーケン１枚打って強引に突破した。

12:30 「荒川源流点」の石碑着。甲武信ヶ岳頂上経由で帰路に着く。